

かわらばん

まちえんながの

第 20 号

6 月 1 日(日)

発行

まちの縁側育み
プロジェクトながの

長野市ボランティア

センター内

TEL 227-3707

FAX 224-1513



新シリーズ

まちの縁側の可能性をさぐる

人がマップになる！

VOL...2

篠ノ井唐臼区の事例から

長野市南部、篠ノ井の唐臼区では、平成18年から「まちの縁側づくり」を推進しています。

もともと唐臼区では、25年前に福祉部会を立ち上げ小地域福祉活動に取り組んできた歴史があります。柳原静子さんは、その中心メンバーとして活動してきました。民生委員と福祉推進委員を長年続けてきた経験から「民生委員は、個の関わりで、個人の課題解決に望む立場であり、福祉推進委員は、地域の課題に組織として取り組むことができる立場である。」と言います。民生委員だからこそ見えてくる個人の困りごとを、地域全体の課題として捉えることが唐臼区の福祉の向上になると福祉部会で様々なことに取組んできたのです。



まちの縁側実践講座で唐臼の良いところ探し！

ご近所力の復活を目指して

毎月11日に開かれるふれあいサロン「いい唐いい唐よつて亭」もその一つです。

そうした中で、平成22年には、まちの縁側実践講座を唐臼区主催で開催し、ひと昔前のような「近所」のつながりを取り戻し「近助力」を高めようと考えたのです。



サミットで話し合うみなさん

講座では、「地域をよくしたい、人とのつながりを大事にしたい」と日頃から感じている『縁側人』たちがたくさんいることがわかりました。その縁側人が集まる「縁側サミット」を毎年3月11日に開催。地域づくりについてみんなで考える研修の場です。初めてのサミットを行なった日に東日本大震災が起こり、人とのつながりの大切さを改めて感じた柳原さん。「いざという時に紙の地図は役に立たない。人がマップにならなければ。」と、明言を残しています。

支えあいマップでつながりを確認

そこで4回目のサミットとなった今年は、人と人の関係を地図で確かめ合う「支えあいマップづくり」を行いました。前代未聞の大雪をご近所同士で助け合った様子を地図の上に表していくと、普段の様子が見えてきます。買い物や草とり、年齢に関係ない助け合いや意外な人とのつながりも。孤立する人がいないように縁側人たちが日ごろから緩やかに気にかけて合っていることが確認できました。柳原さんは、「こうしたことをやり続ける、小さな積み重ねが唐臼の福祉力を高めてきました。」と、今後も意識を持ち続けるための仕掛けをしていきたいと話します。



支えあいマップで書き出したご近所の関係



世田谷トラストまちづくりの情報紙に掲載されました！

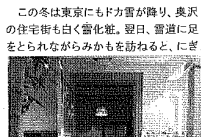
ふ れ る ・ つ な が る ・ ひ ゝ

一箱古本市始めました！！

読書空間 みかも

〒204-8502 世田谷区元町2-33-2
読書室 403号B201
http://www.tanigami.com/network/mk6.html
掲載日 毎月ホームページをご覧ください

新しい風を入れる



この冬は東京にもドカ雪が降り、奥武の住宅街も白く曇化。翌日、雪道に足をとられながらみかもを訪ねると、にぎやかな声が聞こえてきた。入り口には瀬戸内海の小島で採られたポンカンとレモンが売られている。雪の白に鮮やかなオレンジと黄色が映える。この日は「一箱古本市」の日。代表の福田直美さんは、自由が丘で「まりり書店」という古書店を営んできた。この場所を「読書空間」と名付け、8年が経った。現在は着付け教室やフェロの教室などで使ってもらうことで運営はなんとか軌道に乗ってきているという。

この一箱古本市は彼女曰く「新しい風を入れるため」。自分が古本市を開くと自分のチョイスでしかないが、こうして色々な人が一箱づつ持ち寄るとその人なりの色が出る。利用料をいただくことで運営費にもあてられる。新しい人も気軽に参加してくれることで新しい風が吹く、というわけだ。

たアウセリヤーなども売られていて見えない。古本市とはいっても小さなフリーマーケットのようだ。店員さんも多世代な感じがにぎやかさと華やかさを添えている。若い人、子ども連れのお母さん、高齢のご婦人。第30年を過ぎたかつての海軍住宅で多世代が種々な時間をともに過ごしている図は微笑ましい。

地域に根を生きてきた。2013年には東玉川、奥武の地域活動団体を紹介する「人&まちネット」にも紹介され、着実に認知度が上がっているのを実感する日々だ。

「きょうよう」と「きょういく」が大事。年をとってくと教養ならぬ「きょうよう」と教育ならぬ「きょういく」が大事。とみかもの来訪者が言っていた。遠くの用事はなかなか行けなくても、みかものようにまちなかへ行くとあれば安心だ。まちに開いたかつての「海軍さんのおい」には、しっかりと運営を支える人たちが根付き、さらに多世代が入り込むことで確実にまちの「きょうよう」と「きょういく」の場へ成長している。一箱古本市は、今後も2ヶ月に1度のペースで開催したいそうだ。「まずは開くこと。場の特徴を生かす活動を出来ることからはじめよう」



まちの縁側育みプロジェクトながの

「地域共生の場」を「まちの縁側」と定義し、まちの中にすでにある場を探すことにより導入しているユニークな活動。そうすることで、子育てや介護といった行政の役割（保幼、保母、商業など）ではない多様な縁側を築く。まちの縁側育み「まちえんがわ」を発刊。長野県社会福祉協議会と協働し進めている。

クロスロード

ここがまちの縁側！と思ったから紹介する。ひと、もの、こと、つながるやからつながる。より多くの場を縁側として紹介する。取り組みや紹介も紹介します。

5,000ヶ所を目指して！

■ 信濃では月と仏とまちの縁側
「まちの縁側育みプロジェクトながの」は世の中の人間関係が切り切れていっていることに憂い、2010年3月に立ち上げたプロジェクトです。まちの縁側を伝える「まちの縁側一歩」、新しい縁側を発見する「まちの縁側探検隊」、縁側人が集まる「まちの縁側学会」などを実施し、長野のまちに「まちの縁側5000ヶ所」を目指しています。

「90歳で一人暮らしのウメさんは、日常生活の維持にも困るようになり、電球が切れてもそのまま、部屋の中には物が山のように重ねられ、孤立していきま。そこに現れた近隣のたちが繰り出す「縁側的人間関係がウメさんの心を開いていきます。まちの縁側一歩の物語の一部です。
まちの縁側探検隊は各地で「まちの縁側探けん・発けん・ホットけん」講座を開いています。松代地区に住むIさんは、自宅の玄関脇にベンチを置き「病院や買い物についてお休みください」と看板を掲げました。西三才地区に住むKさんは、眺望のいい自宅の庭に「しのめ喫茶」を開いて一緒にお茶を楽しむ空間をつくりました。稲田地区に住むNさんは、認知症のお母さんの介護をする中で、地域のお年寄りに話し相手になってもらうとうと自宅の廊下をサロンにしました。定年退職した川中島地区のSさんは、学校にある保健室と同じような「地域の保健室」を自宅に開設しました。いづれも講座で発見したまちの縁側です。
自宅の余白空間や自分自身の持ち味を活かし、外に開くことによって、それが「まちの縁側」になっていきました。現在2500ヶ所、目標に向かって今日も縁側の旅を続けています。(まちの縁側育みプロジェクトながの 小林博明)

地域共生の家を推進している「世田谷トラストまちづくり」さん、数年前から情報交換をさせていただいています。長野から東京に出向いたり東京から楽会（第2回）へ来ていただいたり、そんなご縁があって、世田谷トラストまちづくりで発行された情報紙「地域共生のいえかわら版第2号」に長野の取組みを掲載していただきました。レポートは、「5000ヶ所目指して！信濃では月と仏とまちの縁側」と題して育みプロジェクトの小林隊員が紹介。実際の縁側物語からその心も伝えていきます。

世田谷トラストまちづくりのホームページからもご覧いただけます。

www.setagayatm.or.jp/

募集しています

おまたせしました！！

第3回まちの縁側楽会開催！

～別紙をご覧ください～

居場所の必要性がますます求められる中、まちの縁側が持つ力について熱く語り合ひましょう！縁側会員のみならず、遠方の方もご参加ください。それぞれの地域の面白い事例などもぜひご紹介ください！

7月6日(日曜日)
11時～15時

「あなた」にとってのまちの縁側を教えてください。子どもの頃の居場所はこんなところだった！大人になっての居場所、現在の居場所・・・こんな縁側見つけた等なんでもOKです。400字程度で下記メールアドレスへお送りください。ご応募いただきましたら『まちえんがわ』で紹介させていただきます。

vc106@vnetnagano.or.jp

つばやき 社協でまちの縁側 事業が始まって十年になるうとして います。縁側なん かいらないって言 われた時もありま したが、継続は力 なり！ある時ふつ と風がふいて今ま で関心の無かった 地域が動き始めた り知らないところで 縁側を始めている 人がいたり。今年 もおもしろくなり そうです。



*まちの縁側育みプロジェクトながのでは、まちの縁側を伝え広める活動をしています。地域に出かけ縁側の紹介や研修を行っています。縁側に関心のある方はご一報ください！

まちの縁側育みプロジェクトながの
電話 (026) 7707